

## 重症心身障害児者における血清亜鉛に関する検討

◎高橋 真奈美<sup>1)</sup>、河合 裕子<sup>1)</sup>、仁科 正樹<sup>1)</sup>、中島 美由紀<sup>1)</sup>  
独立行政法人 国立病院機構 豊橋医療センター<sup>1)</sup>

## はじめに

経腸栄養剤は必要なエネルギー量を十分に経口摂取できない場合にしばしば有用である。経腸栄養管理の場合、微量元素欠乏、特に亜鉛の欠乏について注意が必要であるが、血清亜鉛の値は、著明な欠乏の例を除いて、体内における亜鉛の充足の指標にはならないとされる。今回我々は、重症心身障害児者（以下、重症児者）において、主に血清亜鉛について検討を行った。

## 対象

2018年8月現在、当院の重症児者病棟に入院中で、メイバランス 1.0 を1年以上継続摂取している重症児者12名（以下、M群）と、きざみ・ミキサー食を摂取する24名（以下、F群）を対象とした。

## 方法

2018年8月の、M群とF群における、年齢・体重・身長・一日エネルギー摂取量、血清アルブミン・クレアチニン・アルカリホスファターゼ（以下、ALP）・ヘモグロビン・亜鉛を測定し、F検定とt検定を行った。

2018年7月～9月の、当院のきざみ・ミキサー食と一般食の、1000kcalあたりの亜鉛の含有量をAJIDAS8（富士テレコム（株））を用いて算出し、メイバランス 1.0 の含有量と比較した。

本検討にあたり当院の倫理委員会の了承を受け、各患者の保護者に文書で同意を得た。

## 結果

M群はF群に比べて、摂取者の年齢が低く、一日エネルギー摂取量が少なく、血清ALPが有意に高値であったが、血清亜鉛（M群：平均57.9 $\mu$ g/dl、F群：平均57.5 $\mu$ g/dl）や他の項目に有意差を認めなかった。

1000kcalあたりの亜鉛の含有量は、きざみ・ミキサー食は5.51mg、一般食は5.16mgで、メイバランス 1.0 の含有量（8.00mg）よりも少なかった。

## 考察

両群とも、血清亜鉛の値は、亜鉛欠乏症と診断される60 $\mu$ g/dl未満であったが、皮膚炎、口内炎、易感染症、貧血などの亜鉛欠乏の症状は認めず、亜鉛欠乏をきたしていないと考えた。血清ALPは、年齢差の影響を考えた。

重症児者の血清亜鉛の値は、亜鉛の摂取量にかかわらず特徴的で、体内における充足を反映していないため、血清亜鉛が低値でも、亜鉛補充が不要な症例の存在を考慮する必要がある。

連絡先 豊橋医療センター 臨床検査科  
高橋 真奈美  
0532-62-0301（内2233）